

令和8年度 北海道函館聾学校グランドデザイン

目指す子ども像（校訓）

- 広い心で 助け合う子ども（徳育・協働）
- よく考えて 学ぶ子ども（知育）
- 元気で たくましい子ども（体育）

学校教育目標

- すすんで知識・技能を磨き、生きて働くものとして習得する子どもを育てる。（知識・技能）
- 自ら考え、判断し、適切に表現し、課題を解決する子どもを育てる。（思考力・判断力・表現力等）
- すすんで学び、心豊かに、たくましく生きる子どもを育てる。（学びに向かう力・人間性等）

目指す教師像

- 人として、当たり前のことを当たり前に行える「凡事徹底」と、幼児児童生徒に手本となるべく「率先垂範」ができる教師
- 常に学び続ける姿勢をもつ教師
- 善悪や規範意識等、適切な判断がくだせるよう感性を磨き、自分を律することができる教師
- 迷ったときには、常に答えは子どもたちにあることを知っている教師
- 幼児児童生徒のために為すべきことは何かを常に問い、決してぶれることなく、効果的、効率的に業務を遂行できる教師

5年後、10年後の函館聾学校（創立130周年後の在り方）

<経営理念・ミッション>
「声が響き 手話が弾む
～すべては子どものために、そして保護者に寄り添い、地域とともにある学校～」

本校の目指す学校像

- (1) 子どもが通いたい学校
- (2) 保護者が通わせたい学校
- (3) 教職員が働きたい学校
- (4) 地域の方々が訪れたい学校



【協働する教職員】

幼児児童生徒の実態（育成を目指す力）

- ・一人一人の実態に応じた学習の基盤となる言語力（生活言語・学習言語）を身に付ける必要がある。
- ・豊かな経験に基づいた知識・技能を身に付け、生きて働くものとして習得する必要がある。
- ・具体的思考を積み重ね、抽象的思考を深めようとする力を身に付ける必要がある。
- ・自ら判断する力や自己決定する力を身に付ける必要がある。

令和8年度の重点

- ・「実物・実体験・本物・優れたもの」に触れさせる教育活動を効果的に推進する。
- ・言語指導・教科指導を充実させ、確かな学力を育成する。
- ・ボランティアバンクを活用した地域学校協働活動で効果的な教育活動を推進する。
- ・教職員の指導技術と専門性の向上を図る研修を充実する。
- ・学校DX化による授業改善及び校務効率化を更に推進し、教育的効果を高める。
- ・災害対策や学校事故の防止に努め、安全・安心な教育環境を整備する。
- ・「同僚性」と「メンタルヘルス」による全校的な『ウェルビーイング』の実現を図る。
- ・不祥事の根絶、服務規律の保持を目指し、教育公務員としての自覚と責任を促進する。

より一層充実させたい課題

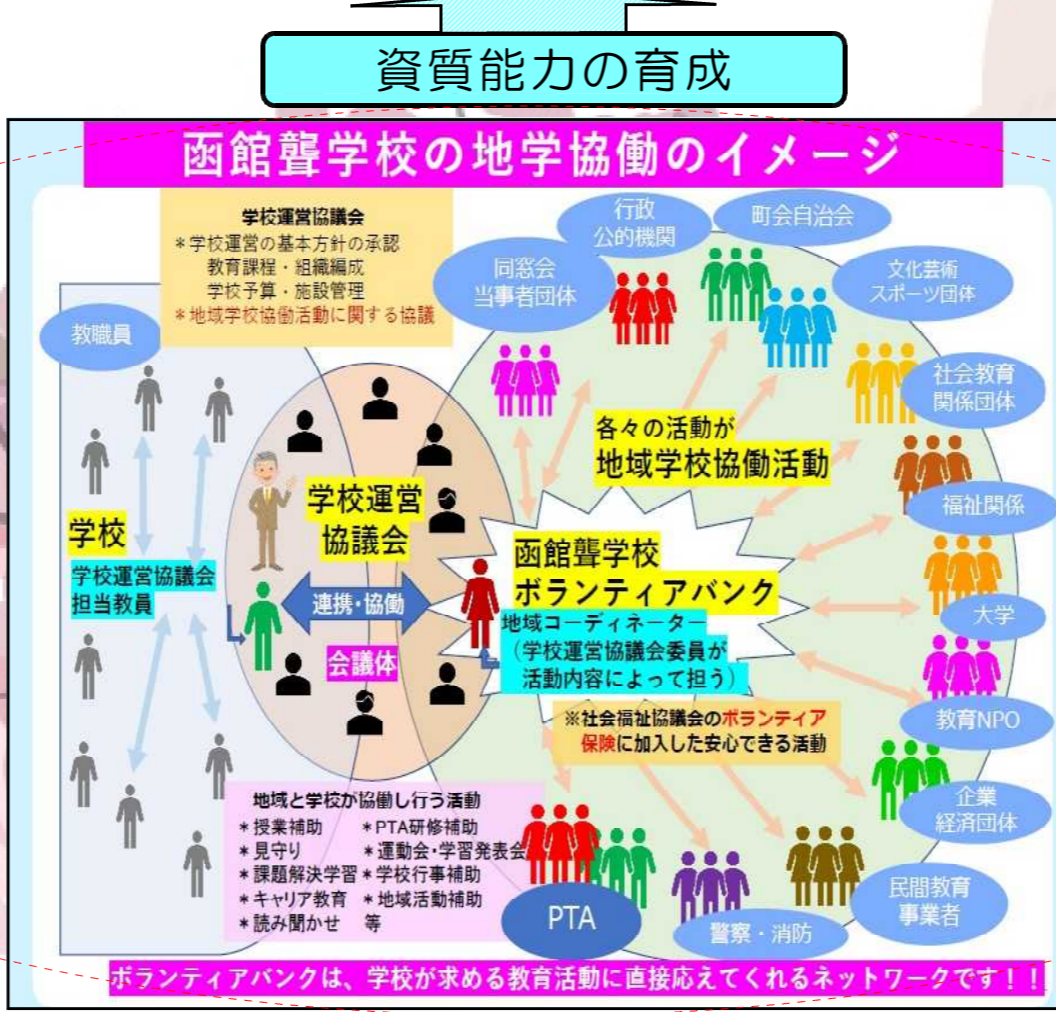
- ・ボランティアバンクを活用した効果的で唯一無二の教育活動の推進
- ・多様な集団化を工夫し、子どもが学び合う指導の推進
- ・実態差のある幼児児童生徒に対する個別最適な学び及び協働的な学びの推進
- ・AIドリル等、ICTを活用した教育の一層の推進
- ・教職員の専門性向上の一層の推進

指導体制の充実（実施するために何が必要か）

- ・地域資源を活用した体験学習と外部人材を活用した教育活動の推進

何ができるようになるか（学校教育の基本）

- ・学習の基盤となる言語能力
- ・豊かな経験に基づいた知識・技能
- ・生きて働く知識・技能
- ・抽象的思考力の基盤
- ・判断力や自己決定力



何が身に付いたか（学習評価を通じた学習指導の改善）

- ・個別の教育支援計画の目標
- ・個別の指導計画（自立活動）の目標
- ・成功体験や達成体験に基づいた自己有用感や自信
- ・生きて働く知識・技能
- ・自ら考え、判断し、表現し、課題を解決する力
- ・自己理解、他者理解に基づくセルフアドボカシー
- ・主体的に学習に取り組もうとする態度

幼児児童生徒の発達をどのように支援するか（配慮を必要とする児童生徒への指導）

- ・個別の教育支援計画の活用
- ・個別の指導計画（自立活動）の活用
- ・地域の多様な人材や社会資源を活用した体験学習やキャリア教育

何を学ぶか（教育課程の編成）

- ・言語能力、コミュニケーション能力、セルフアドボカシー
- ・各発達段階における準ずる教育課程（幼児教育、小中学部の教科指導）
- ・幼児児童生徒それぞれの課題に応じた自立活動

どのように学ぶか（教育課程の実施）

- ・子どもの主体的な学び
- ・ICTを活用した個別最適な学びと協働的な学び
- ・地域と連携による唯一無二の教育活動（「実物・実体験・本物・優れたもの」を重視）

家庭・地域との連携・協働（何が必要か）

- ・積極的なPTA活動
- ・学校運営協議会の活用
- ・町会・幼保小中学校等との連携